

モトクロス競技会における 安全対策の指針

一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
MFJ モトクロス委員会

Ver. 2020年1月1日

事故発生防止策が必要な理由

競技会開催中に発生した事故への責任

例えば、モトクロス競技会の開催中、走行中の選手がコースを外れ、コース脇にいた観客と接触する等、事故発生を防止するよう努めなければなりません。万が一、そのような事態が発生した場合、その大会の主催者だけでなく開催された施設の過失が問われる可能性があります。

事故発生で受けるダメージ

- ① 事故の発生は、モトクロス競技の印象を著しく低下させ、競技人口の減少やファン離れにつながる恐れがあります。
- ② 観客賠償事故が発生すると、保険の掛け金が値上がりし、結果として競技会申請料が値上がりします。
つまり、MFJ公認競技会・承認競技会主催者の負担が増える結果も招きます！

過去の事例

過去の事故事例で、目立って大きな事故が発生しているのは、スノーモビルやモトクロス等、観客エリアと競技エリアの境界線がわかりづらい場所で行われている競技に多く発生しています。

発生要因

1. モトクロスサーの性能の向上の認識の甘さ
2. 施設内の設備不足
3. 立入制限用備品、場内保安スタッフ、コース境界線表示等の不足
4. 観戦者や参加者の同伴者、主催者、施設の立ち入り区域の認識不足 などが考えられます。

★関係者全員が、意識しなければならないこと

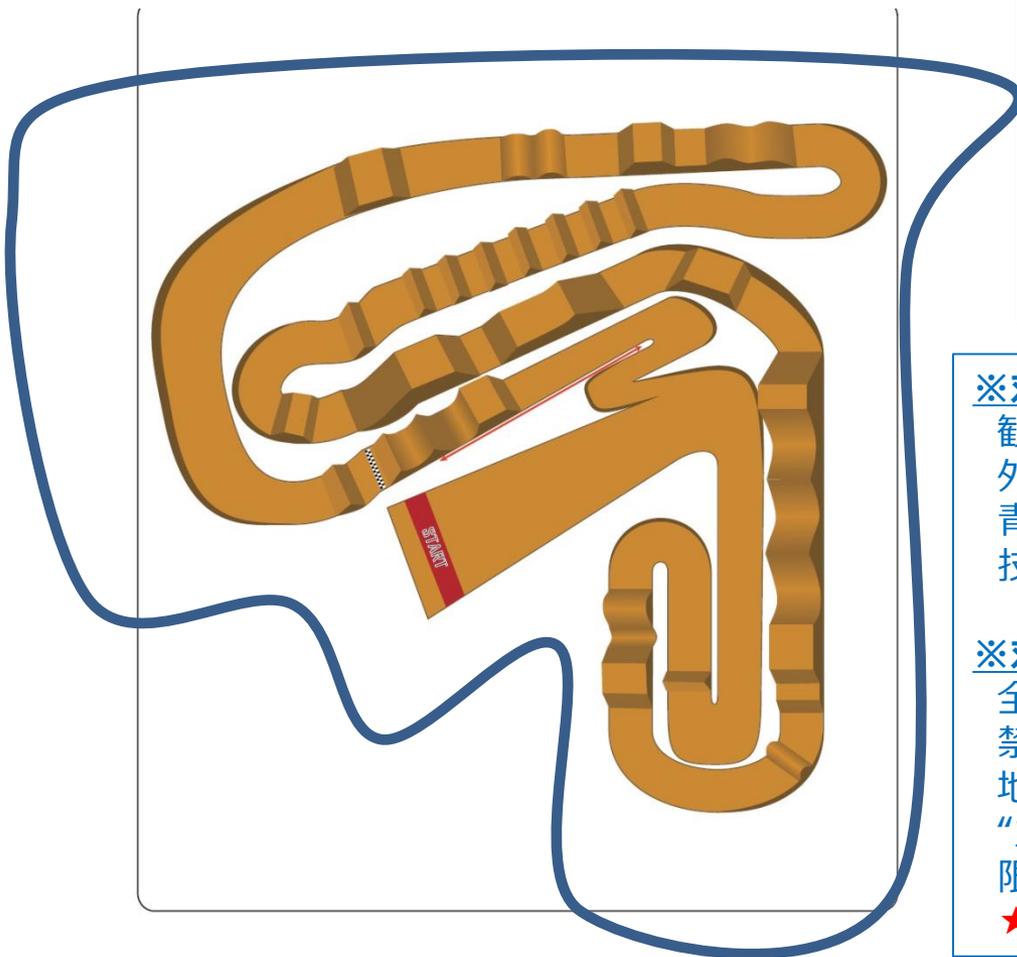
事故は、発生した後のことを考えるのではなく、未然に防ぐ努力をしなければなりません。MFJモトクロス委員会では、事故発生防止を主眼に置き、全国のモトクロスサーキット・競技会主催者様に、ぜひご対応頂きたい事項を「モトクロス競技会における安全対策の指針」としてまとめました。

安全対策は、競技会主催者だけでなく、サーキット・エントラント・観客の理解と協力が無ければ成立しない為、より多くの啓蒙活動を行っていきましょう。ご協力をお願いします。

事故を未然に防ぐ ①

【立ち入り禁止区域の明確化】

ロードレース施設や野球場のように、フィールドと観客席を分離させることが難しいのがモトクロスコースだが・・・
万一、コースアウトしても観客エリアにまでマシンや選手が到達しない（飛びださない）程度
の間隔を外周に設け、立入の制限を行うこと。



<特に、間隔を広めにとるポイントはココ！>

- 第1コーナーの外側（スタート直後の両側）
- 最終コーナーの外側
- ウォッシュボードの両側
- ビッグジャンプ着地点周辺
- 直線からコーナーへの延長線方向外側
- ビッグバンクの外側
- 轍（わだち）等の荒れた路面の両側
- 高速セクションの両側

※対策：インフィールド入場禁止

観客がコースを渡り内側に移動するような行為を禁止。
外周より外側を観客エリアとして設定。
青線より内側は、競技エリア（選手・PITクルー・プレス・競技役員のみ）とする。

※対策：安全管理を行うスタッフ（場内警備）の常駐化

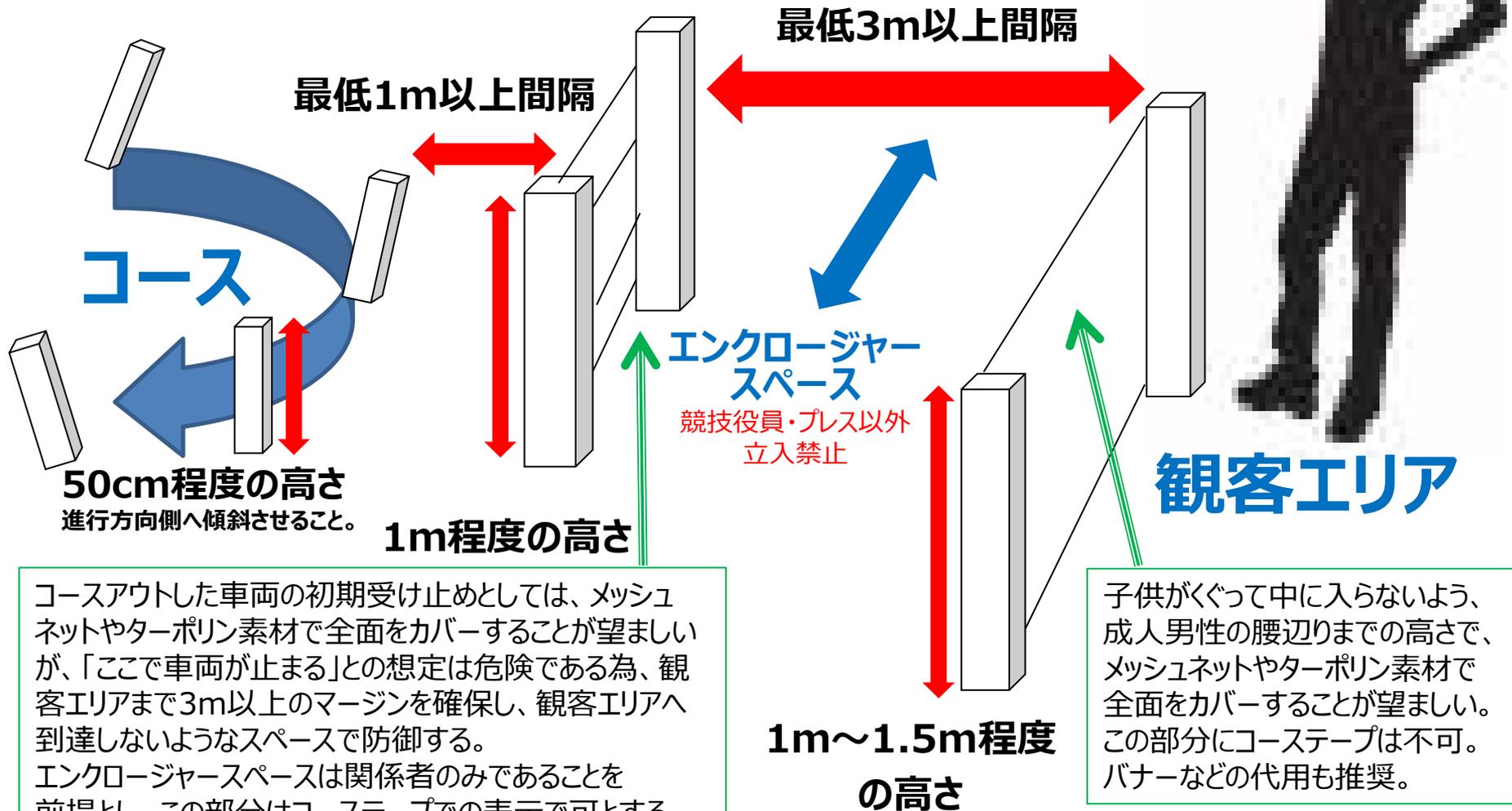
全日本選手権は、スタッフの常駐を義務化とし、“立入禁止”コーステープや立入禁止看板等でエリアを制限。
地方選手権以下の格式は、可能な限りスタッフを常駐させ
“立入禁止”コーステープや立入禁止看板等でエリアの制限は、必ず行う。

★立入禁止の意志表示を必ずしなければならない。

事故を未然に防ぐ ②

【二重柵の優位性】

エンクロージャスペースを、
救急導線、役員移動路に使用できるようにし、
緊急時の移動をスムーズに行う



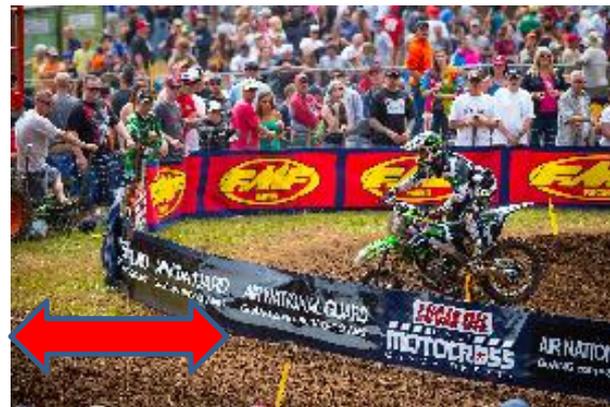
コースアウトした車両の初期受け止めとしては、メッシュネットやターポリン素材で全面をカバーすることが望ましいが、「ここで車両が止まる」との想定は危険である為、観客エリアまで3m以上のマージンを確保し、観客エリアへ到達しないようなスペースで防御する。
エンクロージャスペースは関係者のみであることを前提とし、この部分はコーステープでの表示で可とする。

事故を未然に防ぐ ③

【海外での参考例】

万が一、ライダーがコースアウトした場合でも、この間隔により、観客席まで到達する可能性は低い。
観客の安全とともに、出場するライダーも安心してレースに臨むことができる。

観客エリアとの境界にはフェンスネットが設置されているケースが多いが、世界選手権MXのコースではナイロンメッシュはライダーが飛び出した時に安全にキャッチする意味で使われており、その外に観客を守るため鉄フェンスが施工されているのが一般的である。（幼児や行儀の悪い観客の乗り越せ対策にも有効）



事故を未然に防ぐ ④

【サインボード、立入禁止コーステープ利用の優位性】

看板表示 例

注意点

- ・ 雨で破損しない
- ・ 泥で汚れても読める
- ・ 風で倒れない、飛ばない
- ・ 誰もが見える目線の高さ
- ・ 読みやすい書体
- ・ すぐにわかる設置場所
- ・ わかりやすい設置箇所数

来場者の皆様へ ここは、**立ち入り禁止区域** です。
絶対に入らないで下さい！

- 関係者（大会主催者に許可された者）以外の方は、絶対に入らないで下さい。
- コースサイドは、車両が飛び出してくる可能性があります。危険ですのでコースから離れてご観戦下さい。
- 小さなお子様をお連れの方は、会場内でお子様から目を離さないようご注意下さい。
- 許可なく侵入し、万一、事故が発生した場合でも、主催者および施設は、一切の責任を負いかねます。
- 必ず、許可されたエリアのみで、観戦して頂くよう、ご理解とご協力をお願いします。

大会主催者

全ての区域をテープや看板で明確に制限し、誰でも判別できるような表示をたてる

※観客の来場が想定される競技会だけでなく、「**ライダーの同行者**」も、当該競技会に登録され、かつ有効なMFJライセンスを持つ選手またはピットクルーでなければ、レース関係者ではなく、一般の観客と同じ扱いと認識すること。

※第一コーナー付近のレイアウトは特に注意が必要。バイクやライダーが飛び出しても問題のない十分なセフティーゾーンを設けること。レース時は合わせて放送による注意喚起も行うこと。

事故を未然に防ぐ ⑤

【特に注意しなければならない箇所を理解する】

コース設営時に予め想定することが重要！

- ① 観客エリアと競技エリアを、より積極的に分離すること。（テープ・ネットでの境界線表示、看板設置）
- ② ライダーとマシンが飛び出しても絶対に人の居る場所までは届かない程度（約4～5m程度）、走路と観客エリアを制限するネットを二重にし、間隔を設け、コースアウト時に観客席まで到達させないこと。
- ③ ネットやテープは強度が弱い為、バイクの飛び出し防止（防御壁）として役に立たないことを想定する。
- ④ 特に、観客を入れてはならない場所
 - 直線からコーナーの延長方向（アウト側）
 - 大きなバンクの外側
 - ジャンプ台付近
 - フープスや轍、それに荒れた路面の両側
 - 高速セクションの両側
- ⑤ ライダーが飛び出した場合を想定する（ライダーの安全対策）
 - コースサイドに車や重機（ブルドーザーやコンボなど）を置かない。
 - 飛び出す可能性のあるコース脇着地点が崖でないこと（転落防止）。
 - 杭は長すぎず、丈夫すぎず、ライダーが接触した時に前に倒れるように進行方向側に傾斜をつける。
 - **ライダーが安全にコースに復帰できる様な導線を確保すること。**

コースアウトしたら復帰できない形状やコース復帰する際の合流で他者との危険が発生するような形状は避けて下さい。

競技中のコースアウト時における観客事故の発生防止を全ての施設ならびに主催者の責務として行わなければならない。

事故が発生したときに、「想定外」ということの無いように、観客エリアとコースを仕切る境界のフェンス設置およびにコースアウトを想定した十分なセーフティゾーンの確保、立入禁止区域の明確化等、主催者・施設の責務で必ず行うこと。

事故を未然に防ぐ ⑥

【安全対策で、必要なもの】

- ① メッシュネットまたはターポリンネット (赤・黄など旗と間違える色は避け、緑や青やオレンジを推奨)
- ② “立入禁止” 表示板
- ③ “立入禁止” コーステープ
- ④ 杭
- ⑤ AED ↓

<MFJ加盟団体事務局>

加盟団体事務局に、常時使用可能な状態にあるAED1台を準備し、主催者への貸出等へ対応すること。
※但し、購入しても5年程度で使用期限が過ぎてバッテリーやパッド等の交換が必要になることから、レンタルで対応することも可。(以前、MFJ本部より、加盟団体へ寄贈したAEDは、使用期限が経過しようとしています)

<モトクロスサーキット>

近年はスポーツイベントにおいては配置が当たり前になってきており、競技会以外のスポーツ走行時においても必要とされる可能性も視野に入れ、施設側の責務として、常時使用可能な状態にあるAEDの機器を準備すること。

※参考：AEDレンタルに関する情報サイト

<http://aed.lend-out.info/free.html>

http://www.secom.co.jp/business/medical/aed_charge.html

<上記はほんの一例です。AED購入ならびにレンタルの取り扱い企業は、他にもございますので、各自利便性の高いものをお選びください>

事故を未然に防ぐ ⑦

【競技運営スタッフ（競技役員）の安全確保を考える】

① ヘルメットの着用義務付け（特に、コース役員と救護役員）

＜転倒、落下、マシンとの接触等の衝撃から頭部を守る為、公認競技会での着用義務付け＞

→ 「コース役員と救護役員全員」

② コース内でのコース役員の立ち位置の安全性確保

＜マシンがコースアウトした場合の逃げ場確保、万一転落等の危険性がある箇所の下にクッション等＞

→ 「各地区、各主催者ごとに開催コースにおけるフラッグ役員の立ち位置の拡大」

③ フラッグ知識向上

＜競技役員のイエロー・ホワイトフラッグの提示の仕方、タイミングの理解、救護知識の向上を図る＞

→ 「各地区、各主催者ごとに競技役員へのフラッグ講習を実施」

※地区モトクロス委員長、モトクロス委員会、加盟団体が積極的に開催する